

150105と畜業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2022	9	14 ～ 16	工場内において、被災者が脚立を用いて清掃作業中、床上に倒れているところを発見され、翌日に収容先の病院で死亡した。なお、被災者は保護帽を被っていなかった。	371	1	30 ～ 49
2012	8	14 ～ 15	被災者は加熱室においてウインナーの製造業務に従事していたが、加熱室内でうずくまっているところを同僚により発見された。1時間ほど様子を見たが症状が改善しないため、救急を要請したものの、搬送先の病院で死亡した。	371	1	300 ～
2009	6	15 ～ 16	精肉配達を終了し店に帰る途中、国道のゆるいカーブにさしかかった時、雨のためフロントガラスが曇ってきたので、運転者が窓を開けるためパワーウィンドを操作しようとして、手元に気を取られセンターラインをオーバーしたところに対向車が来て衝突した。	231	17	1～ 9
2004	10	13 ～ 14	牛の内臓を搬送するコンベアの搬器を所定位置において傾げるためのエアシリンダーの圧力計を点検中、移動してきた搬器と壁との間に挟まれた。	224	7	30 ～ 49
2004	4	17 ～ 18	屋外の汚水処理施設汚泥貯槽内に降りる際に転落し、溺死した。	418	10	1～ 9

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。